

# 佐藤内閣打倒！

## 70年安保条約粉碎！

### 沖繩米軍政打倒！

#### 10/21 国際反戦闘争を闘い

#### 11/12 佐藤訪米を阻止せよ

#### 67/10/18 共産主義者同盟関西地方委員会

#### I 闘いは、新しい局面に入った

労働者諸君ノ 10/8 羽田闘争に注目しているすべての諸君ノ 羽田闘争に対して、権力とブルジョアジ、そして商業新聞とブルジョア・イデオロギーは、労働者、学生を、狂った暴徒、としてあつてきた。大多数の労働者、婦人はこう考えた。佐藤首相はあまでして「ベトナム訪問」を、何故しなければならなかったのか？ 佐藤首相はまちがっているのではないかと、学生の気持はわかるが、もっと別の闘い方法があつたのではないかと、と……

先進的なインテリゲンツィアと労働者は、羽田闘争は無条件に支持されねばならないし、無条件に擁護する必要がある、と考へ、この考へにもとずいて活動した。

良心的なインテリゲンツィアと労働者は、学生が孤立して闘っているのは、自分達がしつかりしなければならぬのだ、と考へた。学生を孤立させないよう、街頭闘争にインテリゲンツィアや労働者が、もっとたくさん出て「佐藤訪米」に抗議すべきである、と考へた。またある者は、街頭闘争や有効な宣伝や思想闘争を持つ必要があつた、と、また他の者は、街頭闘争は、はつきりと陣地戦と結びつくと必要がある、と考へた。……

労働者諸君ノ 婦人労働者、母親、そして青年労働者諸君ノ そして、先進的な、良心的なインテリゲンツィア、戦闘的労働者・学生諸君ノ 10/8 羽田闘争を労働者、学生が血を流して闘い、官権の弾圧をくぐつて、なお、先駆的な、忍耐不拔の闘いをつづけている時、外国から、いくつものゲケレイと連帯の電報がとどいている時、そして諸君が、色々と悩み、よい方法はないかと考へている時、日本共産党は次のような下司統一戦線部長の声明を発表していたのである。

羽田空港入口における警官隊と反革命トロツキスト分子との「衝突」について

「この事件の本質は、わが党および民主勢力に対する中傷と破壊活動を事としている反革命分子と反動勢力との間の「衝突」である。」 (10/9「赤旗」)

日本共産党はよくなたらうか。60年安保闘争の時よりも、4/17 土反対声明よりも、少しぐらいよくなったであろうか？

今、政府、自民党権力は、暴虐と弾圧をくりひろげている。破防法、刑法拡大執行、国会運営の検討、国会デモ規制等々……

権力は、彼等を、狂った暴徒、と言う。そして、日

本共産党は、アメリカ帝国主義の手先、反革命挑発分子、と言っている。

- ① 10/8 羽田闘争を弾固として無条件に支持し、無条件に擁護することを要求する。
- ② 10/21 国際反戦闘争、11/12 佐藤訪米阻止闘争に立ちあがることを要求する。

#### II 全面的政治暴露を展開せよ

政府、自民党首脳部は、政治問題の中心を、「日本の防衛」に限定されている現在の安保体制の基調を「極東の安全」へ方向へ転換、拡大してゆくことを強化しはじめた。闘いは13日の全国反戦統一闘争を一つのエポックにして、今、新しい局面に入った。日本と東南アジアとの直接的関係は、今、「沖繩、小笠原問題」を媒介として、日米の70年安保条約問題に移った。

政府自民党は、「沖繩、小笠原問題」をテコにして、

- ① 東南アジアの経済、技術援助の強化、この地域の政治的、経済的安定への日本の役割
  - ② 安保第6条の積極的活用・米軍の行動への協力態勢の強化
  - ③ 米原潜（原子力空母の入港をとおして、核アレルギー）の除去
  - ④ 国防の強化、国会内外でのPR
  - ⑤ 野党との対決
- を挙げて活動しはじめている。
- 権力は、「日本の防衛」「極東の安全」を旗印に、「沖繩、小笠原問題」を中心に、これを押し進めようとしている。
- 佐藤訪米を契機に、局面は、明らかに大きく転換している。今、共産主義者とプロレタリアートにとつて要求されていることは「反戦」や「ベトナム」や、「沖繩」をすべて包括した全面的政治暴露の必要性である。

70年安保闘争、日本帝国主義の東南アジアへの侵略、そして帝国主義軍隊の強化に対するプロレタリアートの闘いが要求されている。

プロレタリアートは、その政治的任務を、「沖繩問題」に限定してはならない。何故なら、ブルジョアジイは「沖繩返還問題の解決という『国民的願望』との関連のもとに、安保、防衛の問題を提起すれば、とにかく防衛問題から目をそむけがちな国内の空気をかえてゆくうえで、またとない機会となる」と考へているからである。

① 労働者諸君ノ 「日本の防衛」とは何のことだろうか。誰かが攻めてつて、これを国家権力が守り、労働者のために何かしてくれなくてもいいのか。「防衛」とは誰に対する何の「防衛」か？ 労働者にはとられる何ものもない。「日本の防衛」とは、独占資本が、自らの財産、資本を労働者階級から「防衛」しようということである。これは、「第三次防衛計画」が、陸軍の強化を中心に、内乱対策用の兵器の強化に中心をおいていることをみればわかる。労働運動をはじめとする、労働者階級の闘争を弾圧することが、「日本の防衛」のまず何よりも中心的な目的なのだ。

② 労働者諸君ノ 「極東の安全」とは何か？ブルジョアジイはベトナム戦争や、核武装を急いでいる中国の「脅威」など、極東のきびしい情勢」ということを言う、ところでの「きびしい情勢」というのは何か？ それは、まさにもなく、我々労働者と同じ労働者や抑圧されている人民が、資本とその軍隊、カライ政権、軍事政権と闘っているということである。きびしいというのは、日米帝国主義、民族ブルジョアジイ、地主とその権力、軍事政権にとつて「きびしい」ということであつて、決して労働者にとつてきびしい情勢ではない、我々の友達が闘ってくれているにすぎない。

③ 共産主義者とプロレタリアートにとつて「日本の防衛」や「極東の安全」は不必要なばかりではなく、逆にプロレタリアートにとつての抑圧と弾圧、より一層の搾取を意味するにすぎない。ブルジョアジイとその権力がその資本と私有財産と労働者を支配する権力を保持し、安定させ、より強固なものにするために、これを守るためにだけ「防衛」「安全」が必要なのである。

共産主義者とプロレタリアートは決して権力の作謀にだまされてはならない。

彼等は、厚かましくも、自ら労働者を搾取し弾圧しながら、労働者の闘いが危いといつて、労働者を助けるようなふりをして権力を強化しようとしているのだ、労働者は決してこのブルジョアジイの作謀をゆるしてはならないのである。

④ 東南アジアの政治的、経済的安定、米軍隊への協力、米原子力空母入港、国防強化、これらは、資本家とその権力、アメリカの独占、日本の独占、東南アジアの民族ブルジョアジイ、地主、カライ政権、軍政権の利益であつたとしても、労働者階級のベトナムで闘っている人民の、中国の人民のそして日本、アメリカの労働者の利益ではなく、逆に労働者の搾取の強化弾圧の強化、暴虐の激しき以外に何も意味しないのである。70年安保は、ブルジョア同志が労働者を協力して弾圧するための協定である。△裏面につづく▽

# 佐藤内閣打倒！ 70年安保条約粉砕！ 沖縄米軍政打倒！

## Ⅲ 闘いを国際的に結合せよ

① 政府、自民党は「沖縄の施政権返還は」返還に対する日本国民の願望」と「沖縄が日本を含めた極東安全保障にはたしている役割」とをどう調整するかにある」と言っている。「沖縄問題」は果してこのような調整に問題があるのか？

施政権返還の最もよいといっているのは、彼等が沖縄の価値、極東の価値とよんでいる。米軍政とその軍事基地である。これは価値どころか、逆に東南アジアの、特にベトナム人民をくくるしめものである。あり、沖縄人民がくくるしんでおり、返還を困難にしている原因なのである。これはブルジョアジーにとっての価値であり、人民にとっては苦痛の原因なのである。

② 「沖縄、小笠原問題」の根本は、ブルジョアジーとその権力が、世界の人民を抑圧するためにつくりあげた軍事基地であること、これ自体が、人民の打倒目標である。さらに、この基地は、ベトナム戦争のための基地であり、中国への核攻撃の基地である。ブルジョアジーが、プロレタリアートを搾取し、弾圧すること以外に、基地の意味はない。

アメリカ帝国主義と、日本帝国主義と、東南アジアの民族ブルジョアジーが人民を抑圧するためにつくりあげておきながら、これを利用して、人民をだまし、再び新しい弾圧体制を強化しようとしているのである。

③ 日本共産党、社会党は、現在の政治的任務を「沖縄、小笠原問題」に集中している。然し、ブルジョアジーのしいたレールの上を走ることが今重要なのではなく、全面的政治暴露をおして、ブルジョアジーが「沖縄問題」を利用して何をしようとしているのかを明らかにすることが一番重要なことなのである。

④ ブルジョアジー路線に従い、その枠の中で、大衆の日和見性、自然発生性に依存して、「祖国復帰」「完全無条件返還」をきげんで何になるのだろうか、それは、政治内容から見れば、帝国主義と日和見主義の結合としての社会排外主義的傾向を歩んでいるのである。

「核つき」「基地つき」返還をはじめとする早期返還論に便乗していることは、これが、本土の労働者の内部、そして沖縄県民のあいだに分断をつくり出すこととするブルジョアジーの政策にまんとすることを意味している。現在沖縄では、反米民族主義で闘いは出来なくなりつつあるのだ。

⑤ 本土にも基地があり、その価値が希薄であるにもかかわらず、これをとりぞき、70年安保を即自廃棄することが出来ないでいる。何故なら、安保は、日米ブルジョアジーが各国の人民と東南アジアの人民を支

配する上でこれが必要としており、人民を抑圧するための共同の利害にもといて安保があるからである。

沖縄は、本土以上に、軍事基地として、重要性を重んじられ、世界が五番目の基地になっているのである。

⑥ 沖縄の返還が、現実的に可能なためには、この世界で五番目の基地を撤廃しなければならぬのだということを確認し、この闘いのための体制をつくりあげてゆかねばならないのである。現実の真理に目をつむりあても、すぐにも返還が可能であるかのような幻想をかもし出すことはあまりである。

我々は、沖縄が返還されるためには、その米軍政打倒、基地撤廃を要求する。そしてこの闘いの勝利のために、本土の労働者は、安保条約即時破棄、佐藤内閣打倒を闘いおらねばならぬことを要求する。そしてこの日本における労働者の闘いは、東南アジア、アメリカにおける闘いを要求していることをはっきりとさせる必要があるのである。

⑦ 帝国主義と帝国主義の、帝国主義と植民地、被抑圧民族の、密接不可分に結びついた矛盾は、今や、世界的にからみあいはじめている。すべての政治的、経済的、社会的、そして軍事的矛盾は極度からみあっている。それは世界的に絡みあった一つの世界的な有機的構成をつくり出している。だから、共産主義者とプロレタリアートは、ブルジョアジーと闘うためには、国際的に結合した闘いを要求されているのである。社会的矛盾がそうであり、ブルジョアジーが全人民を抑圧し搾取するという共通の利害のためお互いに結合している以上、プロレタリアートもまた、国際的に結合した闘いをおこななければならない。

そして現に、階級闘争は、国際的に結合されはじめている。結合されずにはおかないし、また結合するのである。

## Ⅳ 実力闘争を闘いとれ

### A 羽田闘争を無条件で支援せよ！！

10/8、日本の最も戦闘的な部隊が闘った羽田闘争は、国際的に労働者、人民、そして共産主義者を勇気づけている。また、日本においても、大きな流動を生み出し、各政党、党派、そしてインテリゲンツィア、そして労働者の中に、はっきりと左派の結果をつくり出している。

最も革命的で大胆な部分は、「羽田闘争を無条件で支持している」のである。

然し、羽田闘争は、今、一つの大きな壁にむかっている。

① 日本共産党と社会党は、ブルジョアジーとその権力の、帝国主義の本質をあらわにした攻撃の前に拜

跪し、ブルジョアジーと権力に対する全面的政治暴露を放棄している。彼らは、プロレタリアートの政治的任務を、ブルジョアジーの路線にそって、その枠の中で何とか闘おうという誤りを犯しているばかりではなく、彼らの政治的主張は、「祖国復帰」「完全無条件返還」であった、ナショナルな利害を前面にお出し、一方で帝国主義と地方、大衆の日和見性に拜跪することによって明らかに、社会排外主義的傾向、ブルジョア性に落ちいつているのである。

② 現在、きわめて重要なことは、一方で、労働者を中心とした昂揚がおこりつつあり、他方で日本共産党、社会党をはじめとする政党の後退、動揺、裏切りが、同時に進んでいることである。

共産党は一方で、佐藤訪米の意味を、全面的政治暴露を放棄して、沖縄問題にせまめその内容をブルジョア性におちいつたものにしてきている。他方で大衆の昂揚に依拠し、既して、大衆動員のスケジュールを提起し、巾広い運動、としての要求闘争にこれを制限し、これをとおして、実力闘争を拒否し、暴力反対、という小ブル性まる出しのキャンペーンをうちはじめている。

③ 共産主義者、労働者諸君！ 今、我々にとって一番重要なことは、一方でブルジョアジーと権力の全面的暴露である。そして、他方では、実力闘争の権力を闘い、闘い、闘いすることである。佐藤内閣打倒と、一切の政治的自由の獲得を我々は要求する。

### B 10/21 国際反戦闘争に決起せよ！！

労働者諸君！ 10/8 羽田闘争は、日本の階級闘争に大きな教訓をつくり出したばかりではなく、国際的にこの闘いはうけつがれている。労働者は、自らの闘いを国際的に結びつけた闘いとして闘う必要がある。ベトナムで人民が闘っており、アメリカで、反戦闘争が闘われている。西独では、学生が官権に射殺されても頑張っている。ギリシャでも同じ様な事がおこっている。

労働者諸君！ 権力やブルジョアジーが闘いを注目しているだけでなく、全世界の労働者と人民が、お互いには注目している。全世界のブルジョアジーを相手どり、全世界のプロレタリアートが団結して闘わなければならない。国際反戦闘争に決起せよ！

### C 11/12 佐藤訪米を阻止せよ！！

佐藤首相は、日本と東南アジアの人民をアメリカ帝国主義と一緒に搾取し抑圧するために「訪米」する。労働者諸君、今度は学生を孤立させるのではなく、労働者自身闘いの隊列に加わらなければならない。

11/12 佐藤訪米を阻止せよ！

## 我々の当面のスローガン

一、佐藤内閣打倒！ 政治的自由の獲得！

一、安保条約即時破棄！

一、佐藤訪米阻止！

一、ベトナム侵略阻止！

一、兵器・物資の生産・輸送拒否！

一、米軍政打倒！

一、沖縄軍事基地撤廃！

一、講和条約第三条破棄！

一、小選挙制粉砕！

一、国会周辺デモ規制粉砕！

一、防衛庁の省昇格阻止！

一、原潜、原空母入港阻止！

一、破防法破棄！

一、大管法阻止！